

## 開会挨拶



公益財団法人 太平洋人材交流センター (PREX)  
会長 井上 義國

**司会** 本日の司会を務めますPREXの村瀬です。昨年3月に起きた東日本大震災の影響により延期になっておりましたPREX設立20周年記念国際シンポジウムを今回、新たなパネリストにもご参加いただき、改めて開催する運びとなりました。「これからのわが国の国際協力はどうか」と題し、途上国の人づくりにおける協力と、そうした活動を通じての相互理解の促進、ならびに関西での人的交流の活発化など、国際協力の意義について新たに論議を交わす機会になればと願っております。最初にPREX会長の井上義國よりご挨拶を申し上げます。

**井上会長** PREXが設立されてはや20年が経過しました。これまでを振り返り、我ながらよく頑張ってきたと感慨深く思うと同時に、これもひとえにみなさま方のご尽力の賜物だと感謝の念を募らせるばかりです。この20年で国際情勢はもちろん、国内情勢も大きく変化しました。これからはますます変わっていくものと思われまます。従って、今後については、単にこれまでと同じことをやってもうまくはいかないものと考えております。

本日のテーマは「これからの国際協力は、いかにあるべきか」です。やや漠然としたものを感じられる方が多いかもしれませんが、“変化”する必要性を睨んで掲げたテーマでございませう。例えば、以前は世界一を誇っていた政府開発援助（通称、ODA）が今では5位に甘んじているように、日本の立場も20年前に比べるとずいぶん様変わりしました。ひと口に国際協力と言いましても、従来とは考え方を“変化”させなければ、本当に意味のある協力にならないのではないかと思うわけではな

本来なら、PREX設立20周年に当たる昨年3月16日に開催される予定であった本シンポジウムですが、直前に起きた東日本大震災により、パネリストの大坪さんをはじめ、多くの方が被害に遭われたため、本日まで延期となっております。限りある財源の中で、PREXが今後もODAを利用するにあたり、どのような考え方あるいは方向性で、どのように進めていけば、これまで以上の成果を上げられるのか。モンテ・カセム先生、中西先生、高阪先生をはじめとするパネラーの方々を筆頭に、本日ご参加いただいた識者のみなさま方からご意見を頂戴し、PREXの今後の活動に生かしていきたいと考えております。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。